

- ・ 住み慣れた場所で最期を迎えたい。
- ・ 会場から、死ぬ権利という問題が提起されました。最期のことも話し合っておくことも必要だと思いました。
- ・ 山本様のお話、とても楽しく聞くことができました。とてもいきいきとされていて、認知症になっても元気に生きていけると思いうれしかったです。西本先生のこれからの時代の予測を教えてもらって、よくわかりました。
- ・ 山本さんより・・・「自分のことは自分で」「努力せなあかん」の言葉をいただき、これからの生活を楽しみたい。
- ・ 西本先生のお話より・・・在宅医療を充実していくことが必要だと理解できた。特に訪看・訪問診療・往診の力がより必要であると考えられる機会になりました。
- ・ 訪問看護、連動でのオンライン診療の要領の説明を聞くことができ、身近にリアルに在宅療養（ターミナル含）をイメージすることができました。一般化が順調に進んでいくことを期待しています。家族に負担なく、例えば一人暮らしでも家族同居でも、家族介護をあてにしないで在宅看取りが可能になったらいいな。
- ・ 義兄が訪問看護師の在宅看取りをうけたこと、義母もその可能性が高い状況なので、在宅医療のありがたさを身に染みて感じています。医療費を破綻させないためにも医師の過労を防ぐためにも良い制度だと思います。
- ・ 認知症について興味を持っているので、参加しました。山本さんの話、力強く大変参考になりました。地域の力で予防していくことを探りたいと思います。
- ・ 西本先生、先を見据えたデータが参考になった。
- ・ 山本さんの講演では、認知症と診断されても工夫次第で自分自身気を付けて生きていけばよいと言われていて前向きに考えることができた。趣味をもって毎日喜び、楽しみを持って生活することが大切だと感じた。
- ・ 西本先生の講演は、自分自身のこれからの生き方、死に方を考えるきっかけになった。自分の問題としてとらえて聞けた。
- ・ 最期に向けて一番気になる認知症のこと、今後の多死社会での看取りのことを考え、自らも家族とも話し合っていかなければと思いました。
- ・ 山本さんの話がとてもよかった。病を抱えながら、老いを感じながら、自分を戒めて前向き、積極的に生きる姿が、胸を打ちました。確かに 2015 年の診断がきっかけであり人生の境目になったであろうが、それにもまして、本人の生きる意欲・病に打ち勝とうとする気概が旺盛であり見事としか言いようがない。お話に感動しました。

・講演1 当事者の言葉ですごく心に響きました。「認知症は隠してはいけない」「知ってもらえないといけない」「共生する社会、役割を果たしていく」等リアルにどう感じているのか、認知症についてのリアルな思い等、聞かせていただけてありがたかった。今、自分には近いことではないと思っている人たちにも聞いてもらいたいと強く感じました。

講演2 難しいことをわかりやすく聞かせていただきました。「在宅で暮らしていきたい」「家で死にたい」という思いをもっと重く、現実にしていけることとして考えていかなければと思いました。不可能なことではないと、当事者や家族が感じられるような仕組みにできるよう連携してくれている関係者の方がおられることに感謝します。

・講演良かったです。最後に前田先生からもお話あったように最期（死）をどう迎えるか家族等と話しすることの大切さを感じました。

・山本さんの認知症は隠したらいけない、オープンにしないと。という言葉が印象に残りました。まだまだ、「認知症は人に知られたくない」という認識が強いので、本人発信の大切さがよく分かりました。西本先生の話ではデータ（訪問診療や往診の実数と入院医療費の関係に基づいた在宅看取りの大切さであったので納得しました。

・医療、介護職以外の西本教授より話を聞けて感動しました。色々な部分で専門職以外の話に私が表現できない部分があり感動しました。

・山本さんの前向きな生き方、本当に素晴らしくお手本にしたいと思いました。これからもお元気でお過ごしください。

・西本先生 年を取ることとお金の話は元気で生きることの意味がはっきりとしました。今からできることを努力していき、子供や孫に素晴らしい未来が来ることを願います。







2025.1.18 健康公開講座「生かせいのち」

軽度認知症と診断されて
～高齢期の私の歩み～



山本 芳照







